

## 計 報

### 人口問題研究所長 館 稔技官の逝去

本研究所長、経済学博士館 稔技官は、昭和47年3月21日午後10時15分、脳卒中のため東京都世田谷区代田の自宅で急逝された。享年65歳。

館博士は、明治39年三重県亀山町にて出生。昭和4年東京帝国大学経済学科卒業後、土方成美教授研究所勤務、日本評論社編集嘱託、人口問題研究会研究員兼厚生省嘱託を経て、昭和14年8月人口問題研究所創設とともに研究官として入所され、以来勤続32年を越え、その間に人口政策研究部長、総務部長を歴任、昭和34年4月より所長の任に当たられた。

また、この間、昭和22年一橋大学、同23年東京教育大学等の各講師を兼ね、同25年アメリカ合衆国における人口問題研究状況を視察、同29年国際連合ローマ世界人口会議に出席、同32年国連経済社会理事会人口委員会委員(日本代表)、国連アジア人口センター(ボンベイ)顧問となり、同35年「形式人口学」により学位を受け、同36年国連人口委員に再選、同40年3選。昭和38年国連アジア人口会議(ニューデリー開催)国連専門家、同40年国連第2回世界人口会議(ベオグラード開催)副会長に選出された。なお、主要著書に『形式人口学』のほか、『人口分析の方法』、『人口問題の知識』等がある。

博士は人口問題研究所長として所務を掌理するとともに、人口問題の調査研究に関し顕著な業績を挙げられ、同時に人口問題審議会を始め、統計審議会、資源調査会、中央公害対策審議会等の委員として尽くした功績も多大であった。また、上記のように国際連合人口委員会日本政府代表としての重責を果たすなど国際的分野における功績も大きく、なおまた、日本人口学会、日本統計学会等の役員として学会の活動に貢献した功績も多大なものがあった。このように、多方面にわたって大きな足跡を残された博士の業績を前にして、われわれはその一端なりとも受け継いでゆく決意を霊前に捧げて、心から哀悼の意を表するものである。生前の功績により、没後、叙位・叙勲による従三位・勲二等に叙せられ、瑞宝章を授けられた。

なお、本誌次号を故人の追悼記念号として当てる予定である。